

第6学年1組音楽科指導案

1 題材名 日本と世界の音楽に親しもう

教材名 表現 「越天楽今様」(慈鎮和尚 作歌、日本古謡)

鑑賞 雅楽「越天楽」(日本古曲)

「バグパイプの音楽」(イギリスの古曲)

「メヘテルハーネ」(トルコ古曲)

「アルフーの音楽」(中華人民共和国)

「フォルクローレ」(ペルー、ボリビアなどの古曲)

「ガムラン」(インドネシア古曲)

2 題材について

《学習指導要領との関わり》

- A 表現 (1) ア 範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌うこと。
(2) ウ 楽器の特徴を生かして旋律楽器を演奏すること。
(3) ア いろいろな音楽表現を生かし、様々な発想をもって即興的に表現すること。
- B 鑑賞 (1) ア 曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。
ウ 楽曲を聴いて、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。
- [共通事項] ア (ア) 音色、リズム、速度、旋律、音階、拍の流れ
(イ) 反復、変化

(1) 題材観

本題材では、日本や世界の国々に古くから伝わる音楽のよさを味わったり、楽器の音色の特徴を感じ取ったりしながら、それぞれの音楽に親しむことをねらいとしている。

児童はこれまでにお囃子の音楽や日本の民謡、箏の演奏に親しむ学習をしてきた。5年生では箏と尺八による演奏「春の海」を聴き、実際に箏に触れる活動をしてきた。

本題材では、まずは日本に古くから伝わる雅楽「越天楽」を聴く。「越天楽」では、拍の取りづらさや指揮者がおらず、阿吽の呼吸で曲を奏でていくことの難しさ、日本の楽器の音色の美しさなどに気付かせたい。その上で、色々な国の音楽の特徴を見つけていく。

現代の日本では、日常生活で音楽を聴かない日はまずない。テレビをつけると音楽番組が放送されていたり、街を歩くと店の中から BGM が聴こえてきたりする。さらに近年はインターネットが普及し、日本内外の様々な種類の音楽といつでもどこでも気軽に触れ合うことができるよう

になった。しかし、その多くは広い意味での西洋音楽を元としたものであり、日本の伝統的な音楽に関して、別な要素を加え現代風にアレンジされたものは日本人になじんではいるものの、それらの原曲については、なかなか聴くことのできないものになってしまっていると言える。

そこで、本題材では日本の古典音楽である雅楽の「越天楽」に焦点をあてる。「越天楽」には、雅楽特有の楽器の音色、ゆったりとゆらぎながら流れる旋律、伸び縮みする拍、途切れることのない音の流れ、ピッチのずれにより生ずるスレ、音の立ち上がりのズレなど、児童が聴いてきた音楽にはない雅楽の特徴や面白さがある。本題材では、平安時代から伝わる雅楽のよさや美しさを、児童が興味を持ちながら感じ、味わっていくことができるように、題材の内容を構成し、表現領域では「越天楽今様」を歌ったり雅楽風アンサンブルを交え、リコーダーで箏篳風の旋律づくりをしたりする。そういった体験を通じ、色々な角度から「越天楽」を鑑賞することにより、その特徴や面白さをよさや美しさとして認めながら多様な音楽を受け入れていく態度の素地を育てていきたい。

(2) 児童の実態 (男子17名 女子14名 合計31名)

本学級の児童は、とても素直な反応を示す児童が多い。また音楽の学習に対して、苦手意識をもっている児童が少なくない。特に歌唱に対しては、高学年になり、歌うことが恥ずかしいと感じている児童が多く、苦手意識が強い。しかし、器楽演奏に関しては抵抗なく受け入れられる児童が多い。休み時間も音楽室に来て、楽器の練習をしている児童もいる。

音楽づくりに関して、前期に取り組んだ「リズムをつくってアンサンブル」で、最初は活動に意欲的に取り組んでいるとは言えなかった。しかし、活動をしていくうちに、班の3人で話し合い、だんだんとリズムが合うようになり、合うようになると楽しそうにアンサンブルの練習をしていた。

事前アンケートの結果は以下のようなものである。(調査人数31名)

○日本の伝統的な音楽に興味はありますか。	
・とても興味がある。	5名
・やや興味がある。	13名
・あまり興味はない。	8名
・全く興味がない。	5名
○日本の伝統的な楽器で、やってみたいものはありますか。(複数回答可)	
・箏	13名
・尺八	3名
・和太鼓	10名
・三味線	9名
・琵琶	10名
・その他	1名(三線)
・特にない	8名

○「ミファラシドミ」の音の中から、1つずつ音を選び、リコーダーで演奏しましょう。	
・吹けた	30名
・未実施	1名

<考察>

普段あまりかかわりのない、日本の伝統音楽に対し、ほとんどの児童が「興味がない」と回答すると予想していたが、過半数の児童が日本の伝統音楽に「とても興味がある」「やや興味がある」と回答している。やってみたい楽器に関しては、音楽で学習したことのある楽器の中で、実際に授業で触れたことのある「箏」「和太鼓」への関心がとても高いことがわかった。また、教科書で学習したものの、実物を見ていない「琵琶」や「三味線」への関心も高く、和楽器全般への関心の高さがわかった。このことから、和楽器を中心に学習を進めることで、児童の興味を惹きたいと考える。

都節音階（ミファラシドミ）の中から音を選び、リコーダーで演奏する活動は、すぐに音を選び、自分で選んだ旋律をリコーダーで正確に演奏することができた。ほとんど全員の児童が♪♪♪♪♪♪というリズムで演奏していた中、拍感にのれず意図的ではなく、拍なしで演奏した児童が数名いた。

本学級の児童は、聴いたことがない音楽を聴くことが苦手な児童が多い。例えば、「おぼろ月夜」の範唱を聴いている時、1番を聴き終わる前からゆったりとした曲調の音楽に飽きてしまい、「歌いたくない」とか「もう聴かなくてよい」という児童がいた。「越天楽」もゆったりとした旋律の音楽であるため、そのようなことがあると予想される。また、「木星」の鑑賞では初発の感想で、1つ目の主題が「スターウォーズみたい」「いろんな場面があるみたいだった」という感想をもつ児童がおり、2つめのテーマがドラマの主題歌と同じ旋律であると気付いた児童が数名いた。また、ほとんどの児童が強弱や速度の変化に気付くことができた。しかし、やはり最後まで集中して聴くことが難しく、「長かった」「眠くなった」という感想をもつ児童もいた。このことから、短い旋律を集中して聴くことで、より深く楽曲を味わえるのではないかと思う。

本題材を通して、雅楽「越天楽」を聴いていく中で、日本の伝統音楽のよさに気づき、世界の音楽と比較し、それぞれのよさや共通するところを見つけようとする態度を育てたい。

(3) 指導観

第1時は、はじめて児童が雅楽「越天楽」を聴く時間である。導入では雅楽で使われている笙、箏、竈笛、鞆鼓、鉦鼓、楽太鼓、琵琶、箏を実際に見せ、それぞれの楽器の音を想像させてから実際に演奏しているところを映像で見せ、雅楽に興味・関心をもたせる。それぞれの楽器がどのような音を出すのかがわかったところで、社会の学習と関連させながら、平安時代から続く雅楽の歴史を説明し、雅楽「越天楽」を聴いた初発の感想を書く。その上で、今まで学習してきた西洋のオーケストラと雅楽にはどのような違いがあるのかを見た目と音の違いの両面から考えていく。

第2時、第3時では、「越天楽今様」を歌う。「越天楽今様」は雅楽「越天楽」の旋律に歌詞をつけたものであることを説明し、「越天楽」との関連付けをする。歌を歌えるようになったら、実際に「越天楽」の旋律に乗せて「越天楽今様」を歌ってみる。そこで「越天楽」は独特のリズム

で演奏されており、とても拍が取りづらいことに気付かせたい。この後で、より雅楽に興味・関心をもたせるために箏箏風の旋律づくりをする。旋律づくりでは、事前アンケートの結果にもある通り、「自由なリズムで演奏してよい」という指示をしたにも関わらず、ほとんど全員の児童が「JJJJJJ」というリズムで演奏していた。ここでは、箏箏風の旋律をつくるので、実際の「越天楽」の箏箏の旋律に似せたリズムを提示し、旋律の音高のみを考えさせるようにする。旋律づくりに使う音階は、「越天楽今様」で使われている「レミソラシレ」の音の中から考える。その後は、つくった箏箏風旋律（リコーダー）に鞆鼓（締太鼓）、鉦鼓（当り鉦）、笙（鍵盤ハーモニカ）のパートを合わせてアンサンブルを行う。締太鼓は鞆鼓を表現するために、表と裏の両面を叩けるよう、縦に置いて使用する。当り鉦は鉦鼓のリズムを、鍵盤ハーモニカは高い「レミ」の音で笙の音色を表現する。アンサンブルをする際、「せーの」など、掛け声をかけることなくはじめられるように指示し、指揮者がいなくても演奏できている「越天楽」の素晴らしさを実感させたい。本物の雅楽と比べて、雅楽風アンサンブルをつくっていく過程で困ったことを書き留めておき、次時の鑑賞に必要感をもって取り組ませたい。

第4時（本時）では、導入で前時に困ったことを解決するためにはどうしたら良いかを考えさせ、「越天楽」を詳しく聴いてみたいという意欲をもたせる。「越天楽」を詳しく聴く活動では、アンサンブルを行ったグループの4人をそれぞれ箏箏（リコーダー）・鞆鼓（締太鼓）・鉦鼓（当り鉦）・笙（鍵盤ハーモニカ）の担当に分け、同じ楽器の担当同士4人で8つのグループをつくり、「越天楽」の一部を聴く。それぞれのグループで話し合いながら、何度も「越天楽」の一部を聴くことで、旋律の音のゆらぎや、和音の強弱、鞆鼓や鉦鼓の呼吸の合わせ方などに気づかせたい。また、それを班にもどって共有し、演奏することで、雅楽の世界に浸ることができるのではないかと考える。最後に、今まで学習してきたことを思い出しながら、「越天楽」を最初から味わって聴く。自分が最初にもった感想と、最後に味わって聴いた感想を比べ、以前よりも味わって聴くことができていることを実感し、自信をもつことができたらよい。

第5時では、世界の国々の音楽を比較し、それぞれのよさを探しながら聴く。前時まで聴いていた「越天楽」と比べて聴くことで、共通点や違いを見つけられると考える。日本の伝統的な音楽のよさに気付くことで、世界の伝統的な音楽にも目を向け、そのよさを感じられるようにしたい。

3 題材の目標

- 日本に古くから伝わる歌と楽器の音色を味わって、聴いたり演奏したりする。
- 世界の国々の楽器の音色の特徴や音楽の雰囲気の違いに気を付けて聴き、諸外国の音楽に親しむ。

4 題材の評価規準及び学習活動の具体的評価規準

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の 創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
題材の 評価規準	①日本に古くから伝わる音楽に関心を持ち、楽曲全体にわたる曲想を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。 ②日本に古くから伝わる音楽に関心を持ち、旋律の特徴を詳しく聴き、音楽づくりに生かそうと主体的に取り組んでいる。 ③世界の国々の音楽に関心を持ち、それぞれの音楽の特徴を理解して聴く学習に主体的に取り組もうとしている。	①日本に古くから伝わるリズムや旋律を聴き取り、それらが醸し出す雰囲気に入りながら、速度を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	①日本に古くから伝わるリズムや旋律が醸し出す雰囲気に合う奏法で、旋律楽器や打楽器を演奏している。	①雅楽の楽器の音色、リズムや速度、旋律の特徴などを聴き取り、楽曲全体にわたる曲想を味わって聴いている。 ②楽器の音色の特徴や音楽の雰囲気の違いから想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、世界の国々の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。

5 研究の視点について

【視点1】9年間を見通した学び方の共有

音楽は「歌う」「吹く」「打つ」「つくる」「聴く」など、様々な活動がある。そして、それらを組み合わせることで、どんな児童にも「楽しい」と思わせることができると考えている。たとえば、歌うことを苦手とする児童でも、楽曲をよく聴き、分析することが得意な児童は鑑賞から入り、どのように歌えばよいか考えることから始めることで、歌への抵抗を少なくすることができる。特に、日常生活にあまりなじみのない、日本の伝統音楽については、いろいろな方法で学習することによって、親しみを感じていくことが大切であろう。

小学校1・2年生では遊びを通して日本の伝統音楽と関わってきた。長縄とびをつかっての「おおなみこなみ」や手遊びの「ずいずいずっころばし」、2人組になって体を動かす「なべなべそこぬけ」などで、友達と関わり合い、楽しみながら日本の音楽に親しんだ。3年生ではお祭りの音楽を、4年生では日本の民謡を、5年生では和楽器の音に親しむため「春の海」を聴き、その音階を使って実際に音楽づくりをし、自分でつくった旋律を演奏することで親しみを感じた。

本題材でも、鑑賞と表現を関連させて学習を行っていく。雅楽「越天楽」を聴き、それに合わせて「越天楽今様」を歌ったり、律音階の音階で箏箏風の旋律をつくったりすることで、雅楽の旋律の音の動きに注目して鑑賞できると考える。また、つくった旋律と打楽器を合わせて雅楽風のアンサンブルをすることで、それぞれの楽器のかけ合いや重なりなどにも注目して聴くことができると考える。このように、聴き取ったことを音楽表現することで、それぞれの児童が視点をもって鑑賞することができ、より深く音楽を知ることにつながる。また、音楽の聴き方がわかることで、演奏のよさや音楽の美しさなどを味わいながら聴くことができる子供を育てたい。

中学校では民謡、歌舞伎、雅楽、能など、郷土の音楽や伝統芸能の鑑賞において、その音楽を深く知るために、長唄、唱歌、謡を実際にやってみるなど、表現領域と関連させて学習している。本題材でも、実際に箏箏風の旋律づくりをしたり、雅楽風のアンサンブルを体験したりすることで、より雅楽に親しみを感じることができるだろうと考える。

小学校6年間を通し、日本の伝統音楽を様々な方法で学習することによって、児童が「楽しい」と感じられる経験を積み重ね、積極的に関わろうとする姿勢を育てていきたい。さらに、中学校では、楽曲が生まれた背景や楽曲の構成などについても知り、より深く味わうことができるようになってほしい。

6 題材の指導計画（5時間扱い）

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
		ねらい 日本に古くから伝わる雅楽「越天楽」や「越天楽今様」の特徴を感じ取って聴いたり、演奏したりする。	
	第一時	○雅楽「越天楽」を聴く。 ・「越天楽」に使われている楽器にはどのようなものがあるかを聴く。 ・雅楽についての歴史を社会の授業と関連づけて知り、雅楽「越天楽」全体の雰囲気味わいながら聴く。 ・西洋音楽（オーケストラ）と比べながら、演奏の形態や楽器について確かめる。	日本に古くから伝わる音楽に関心を持ち、楽曲全体にわたる曲想を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。 (音楽への関心・意欲・態度①)
第一次	第二・三時	○「越天楽今様」を歌う。 ・歌詞の意味を確認し、範唱に合わせて歌う。 ・ゆったりとした速度やリズム、旋律に使われている音やその動きなどの特徴をとらえて歌う。 ・雅楽「越天楽」の旋律に「越天楽今様」の歌詞をつけて歌うことで、雅楽「越天楽」は拍が取りづらいことに気付く。 ○「越天楽今様」と雅楽「越天楽」を比べて聴く。 ・「越天楽今様」と雅楽「越天楽」の旋律が同じであることに気付く。 ○箏箏風の旋律をつくる。 ・一人ずつリコーダーで「レミソラシレ」の音を組み合わせ、箏箏風の旋律をつくる。 ・できた旋律を友達と発表しあう。 ○雅楽風のアンサンブルをためす。 ・リコーダー（箏箏）に合わせて締太鼓（鞆鼓）・当り鉦（鉦鼓）・鍵盤ハーモニカ（笙）を入れて、アンサンブルをする。（アンサンブルグループ）	日本に古くから伝わる音楽に関心を持ち、旋律の特徴を詳しく聴き、音楽づくりに生かそうと主体的に取り組んでいる。 (音楽への関心・意欲・態度②) 日本に古くから伝わるリズムや旋律を聴き取り、それらが醸し出す雰囲気に浸りながら、速度を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 (音楽表現の創意工夫①) 日本に古くから伝わるリズムや旋律が醸し出す雰囲気に合う奏法で、旋律楽器や打楽器を演奏している。 (音楽表現の技能①)

		<p>○雅楽「越天楽」の一部をくわしく聴く。</p> <p>・同じ楽器同士で集まり、自分の担当の楽器の音をよく聴く。(鑑賞グループ)</p>	
	<p>第四時</p> <p>本時</p>	<p>○雅楽「越天楽」の一部をくわしく聴いたことを共有する。</p> <p>・鑑賞グループで聴いた内容を思い出しながら、全体で共有する。</p> <p>○雅楽風アンサンブルの演奏をする。</p> <p>・学級を2つのグループに分けて、お互いの雅楽風アンサンブルの演奏を聴きあう。</p> <p>○雅楽「越天楽」を味わって聴く。</p> <p>・「越天楽」の音楽のよさや自分が好きなどころなどを考えながら聴く。</p>	<p>雅楽の楽器の音色、リズムや速度、旋律の特徴などを聴き取り、楽曲全体にわたる曲想を味わって聴いている。</p> <p>(鑑賞の能力①)</p>
	ねらい 世界の国々の音楽の特徴や演奏のよさを感じ取って聴く。		
第二次	<p>第五時</p>	<p>○世界の音楽を聴く。</p> <p>・教科書の写真を見ながら、世界の国々の楽器について確認する。</p> <p>・それぞれの楽器の特徴や雰囲気の違いなどに気を付けて、繰り返し音楽を聴く。</p> <p>・それぞれの国の音楽の特徴や演奏のよさについて聴き取ったり感じ取ったりしたことを話し合う。</p>	<p>世界の国々の音楽に関心を持ち、それぞれの音楽の特徴を理解して聴く学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>(音楽への関心・意欲・態度③)</p> <p>楽器の音色の特徴や音楽の雰囲気の違いから想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、世界の国々の音楽の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。(鑑賞の能力②)</p>

7 本時の学習（4／5）

（1）本時の目標

○雅楽「越天楽」の楽器の音色、リズムや速度、旋律の特徴などを聴き取り、楽曲全体にわたる曲想を味わって聴いている。

（2）展開

時配	学習内容と学習活動	○教師とのかかわり ◆評価規準（評価方法）
3分	<p>1 くわしく聴いた雅楽「越天楽」の一部を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞グループでどんな意見が出たのかを、「越天楽」の一部を聴き、ワークシートを見ながら振り返る。 <p>2 本時の目標を知る。</p>	<p>○プリントを見ながら、雅楽「越天楽」の一部を聴き、自分たちが気付いたことの確認を促すように促す。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【聴くときのヒント】（前時）</p> <p>①「箏（リコーダー…旋律）を聴く人」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音の長さや強弱のつけ方など ・演奏の仕方 <p>②「鞆鼓（締太鼓）を聴く人」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入り方、終わり方 <p>③「鉦鼓（当り鉦）を聴く人」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこで、何回音がなっているか。 <p>④「笙（鍵盤ハーモニカ…和音）を聴く人」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように強弱がついているか。 </div>
5分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「越天楽」をくわしく聴いて気付いたことを、雅楽風アンサンブルに生かそう。</p> </div> <p>3 前時に聴き取った特徴を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞グループで共有したことを、学級全体で共有する。 ・共有したことを、雅楽「越天楽」の演奏の一部を聴いて確認する。 <p><予想される子供たちの反応></p> <ol style="list-style-type: none"> ①・拍が切れた後に少し間が空いている。 <ul style="list-style-type: none"> ・音が揺れているところがある。 ②・旋律の音が切れたところから入る。 <ul style="list-style-type: none"> ・だんだん速くなっている。 ③・最初は切れたところで1回鳴っていた 	<p>○全体での共有では各楽器の担当で話し合ったことを、旋律の特徴を聴いていたグループから順に全てのグループの代表者が言うように伝える。</p> <p>○伝えられた情報が正しいのか考えながら、よく音を聴くように促す。</p>

	<p>けれど、次は2回だった。</p> <p>④・旋律の音が消えると、急に音が大きくなったり、旋律が入ってくると音を小さくしたりしていた。</p> <p>17分 4 雅楽風アンサンブルを演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「越天楽」の一部をくわしく聴いてわかったことを演奏に活かせるように、演奏グループで話し合いながら、練習をする。 ・2つのグループに分かれて、聴き合いをする。 <p>20分 5 雅楽「越天楽」を味わって聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雅楽「越天楽」のよさや、自分が好きなポイントを考えながら聴く。 ・聴きながら、感想をワークシートに記入する。 ・友達に自分の感想を発表する。(アンサンブルグループ) ・班で出た意見を全体で共有する。 	<p>○聴き取ったことを生かしてやってみるよう に伝える。</p> <p>○1～4班を1グループ、5班～8班を2グループとして、お互いの発表を聴き、「越天楽」の特徴をしっかり守ってできているか考えるように促す。</p> <p>○これが授業で「越天楽」を聴くのは最後であることを伝え、真剣に聴けるように雰囲気をつくる。</p> <p>○聴きながら、感じたことをワークシートに書き込むように伝える。</p> <p>○班の中での発表では、必ず全員が自分の言葉で感想を言えるように助言する。</p> <p>◆雅楽の楽器の音色、リズムや速度、旋律の特徴などを聴き取り、楽曲全体にわたる曲想を味わって聴いている。</p> <p>(鑑賞の能力②) <ワークシート、発言></p>
--	--	--